



南高
進路だより

律・啓・創
HOP! STEP! JUMP!

2月



令和3年2月2日
福島南高・進路指導部



2月の行事予定

- 3日(水) 情会進路体験発表会
- ～5日(金) 国公立大学出願締め切り
総合探求発表会(⑤⑥)
- 7日(日) 全商商業経済検定
- 8日(月)～12日(金) 後期期末考査**
- 12日(金)～13日(土) 進研大学入学共通テスト模試(2年)
- 16日(火) 卒業式前服装頭髪指導
- 18日(木) 共通テスト平均点等最終発表
小論文講演会(1年)・小論文テスト(2年)
- 18日(木)～25日(木) 日商簿記検定課外(情会1年2年)
- 19日(金) 小論文テスト(1年)
- 21日(日) 第3回実用英語検定(2次)

- 23日(火) 天皇誕生日
- 25日(木)～ 国公立大学前期試験**
- 25日(木) 45分授業(①②③④)、進路講演会(2年)
大掃除、式場作成 ※詳細は要確認
- 26日(金) 表彰式・卒業式予行/同窓会入会式
- 28日(日) 日商簿記検定(情会1年2年)
- 3/1(月) 卒業式
- 3/3(水)4日(木) 高校入試前期選抜
- 3/19(金) 終業式 合格体験を聞く会
教室移動

大学入学共通テスト – 次は君たちだ！



コロナ禍で例年とは異なる緊急事態の中、3年生は大学入学共通テストを終え、自らの志望校合格に向けて自宅学習期間となった2月でも登校して最後の追いこみをかけている。

学ぶ意志は時間をかけて少しずつ育てていかないと強くならない。自ら努力し、それを継続していかないと身に付かない。1・2年生諸君も、今のうちからがむしゃらに自学自習に取り組んで知識量を増してほしい。そして、もっと質問して疑問点を解決してほしい。まずは学年末(後期期末)考査に全集中しましょう。

<1年生へ>

大学入試を目指している諸君へ。どれだけの生徒が2021年大学入学共通テストにチャレンジしただろうか？まだ目を通していないという生徒諸君はこの時点で一步も二歩も遅れをとっていることになる。

「大学入学共通テスト」は全受験生の平均点が**50点前後**に設定されている。すぐにといいことではないが英数国を中心に、記述問題をプラスして受験生の思考力・読解力を図ることが今後導入される可能性も未だにある。(2024年度実施を目指すという国の見解も過去にはあった。)

「1年生の時からやっておけば・・・」という思いを3年になってからしないためにも、今何をしなければならぬかを考えて、アクションを起こすことが重要になってくる。

まずは、一日一日の学習の積み重ねしか有効な方法はないのだ。週末課題、日々の課題は誠実にこなしているか。課題の提出状況が思わしくないと耳にすることもある。このままで良いのか？それで君の将来は大丈夫なのか？キチンと提出している人ただ答えを書き写すだけに終始していないか。「誠実」とは答を書き写す

ことではない。受験は全国規模での他者との競争である。他者が君たち以上にやっていたら、君たちは必然的に敗者となる。せいぜい人並みの努力を人並みにして、それ以上の結果を望むのは、余りにも虫が良すぎる。人より数倍努力を積み重ねてきたものが勝者となるのである。これはスポーツの世界と原理は一緒である。

期末考査も目前に迫っている。君たちにできることはベストを尽くすことのみである。「2年生になったら頑張ろう」「4月から頑張ろう」という者は、一般的に成功しない。「今、この時点から小さなことを、具体的に、1つでも頑張りはじめよう」こと。1年で学習したことを、もう一度復習・演習をしっかりととして、2年生進級時には基礎学力として定着させておくこと。時期的に復習と演習を始めている人が沢山いてもいいのだが、どれだけの諸君が着手しているだろうか？春休みに新しい教科書を手にしたら、予習を、特に英数国は自分で進めておくくらいが丁度良い。そこで、春休みの具体的な計画を立てること。特に、国数英3教科は、得意・苦手を踏まえた1日単位の学習計画を立てる。苦手分野は今のうちに克服しないとその綻びがどんどん大きくなり、3年生時にはどこから手を付けたらよいか分からなくなる可能性がある。今しかないのである。併せて、起床時間や就寝時間を固定するなど、生活リズムが崩れないようにスケジュールを立てることも大切である。特に学習習慣が定着しておらず、早くも諦めかけている者は、入学時の目標を思い出すべきである。「諦めるのはまだまだ早すぎる。」



<2年生へ>

大学入学共通テストで国公立大合格の目標点は、難関大学では8割、地方国公立大では6.5～7割、今年の平均点程度は必要だ。この目標点と自分の現状との差をどの程度認識しているだろうか？普段の家庭学習がいかに疎かにされているかが分かっているだろうか。マークシート方式の模擬試験がいよいよこの2月からスタートする。今の時期に模試を実施する目的は、自己採点の結果、目標点まであと何点必要なのかを確認するためである。3年からの模擬試験では、教科ごとの目標値を修正しながら第1志望校の目標点数に近づけて欲しい。今から本気になって努力を継続すれば、何とか間に合うはずだ。そのためには自宅での学習時間の確保と生活の仕方を見直す必要がある。何かと理屈をこねて、怠惰に身を任せるのはここまでにして下さい。時間はいくらあっても足りない。電車・バスの中、休み時間、放課後等、創意工夫を凝らし、自らの学習スタイルを確立するようにしなさい。

大学入学共通テストまで1年を切った。まずは3年生夏休みまでの学習計画を立てることをお勧めする。1月の模試、2月の共通テスト対策模試の個人成績表が返ってきたら、自分の成績が全国でどの位置にあるかを確認したうえで、志望校合格に向けて、どの科目をどれだけ伸ばしていくのかを考える。そして、次の模試までの目標と学習計画を立てる。このように、模試の結果から学習計画を立て、次の模試でその成果を試すというサイクルを早い段階で定着させること。その時、まず最初に苦手科目・分野の克服を最優先しなさい。そこで、学年末考査や1・2月模試の結果から、苦手科目・分野を把握し、そのうえで、春の休業中であっても登校して、徹底的に教師に質問をして下さい。勉強の仕方が分からない？何故、今までそのまましてきたのか？それも含めて教師に質問をして下さい。

塾や予備校も有効な方法であるが、過度に依存してはならない。飽くまで、「学校が主」である。

推薦・AOは、一般入試と同程度の偏差値の高校生を、早期に囲い込みたい大学側の策略と心得よ。まずは一般入試でも志望校に合格できる実力をつけること。

部活動を辞めようとしている者は、できるならば踏みとどまってほしい。部活動を最後まで頑張り抜いた者は、部活動引退後に本格的に勉強し始めると、最後の最後で成績がぐっと伸びる。(当然、部活をやりながらも勉強の時間を確保して努力した者でなければ伸びは期待できないが…。)

勉強も部活動も最後までやり切った達成感、気力、体力が、今後の人生で答えのないことに対しても試行錯誤してやり抜く時の自信につながる。

教科	科目	満点	2021年度平均点	2020年度	前年差	
			[中間集計]	平均点		
外国語	英語リーディング	100	58.81	58.15	0.66	
	リスニング	100	56.16	57.56	-1.4	
数学	①	数学Ⅰ	100	39.1	35.93	3.17
		数学Ⅰ・数学A	100	57.68	51.88	5.8
	②	数学Ⅱ	100	39.5	28.38	11.12
		数学Ⅱ・数学B	100	59.93	49.03	10.9
国語	国語	200	117.51	119.33	-1.82	
理科	①	物理基礎	50	37.56	33.29	4.27
		化学基礎	50	24.65	28.2	-3.55
		生物基礎	50	29.17	32.1	-2.93
		地学基礎	50	33.52	27.03	6.49
	②	物理(得点調整前)	100	62.36(57.82)	60.68	1.68
		化学(得点調整前)	100	57.59(51.06)	54.79	2.8
		生物	100	72.65	57.56	15.09
		地学	100	46.65	39.51	7.14
地理歴史	世界史A	100	46.12	51.16	-5.04	
	世界史B	100	63.48	62.97	0.51	
	日本史A	100	49.55	44.59	4.96	
	日本史B	100	64.26	65.45	-1.19	
	地理A	100	59.97	54.51	5.46	
	地理B	100	60.06	66.35	-6.29	
公民	現代社会(得点調整前)	100	58.40(51.96)	57.3	1.1	
	倫理	100	71.96	65.37	6.59	
	政治・経済(得点調整)	100	57.03(49.87)	53.75	3.28	
	倫理, 政治・経済	100	69.26	66.51	2.75	
総合型	5教科7科目文系型※	900	553	547	6	
	5教科7科目理系型※	900	569	552	17	
	5教科6科目型※	800	504	493	11	

【注意】

※科目平均点は大学入試センター発表の数値

◇2021年度平均点は1/22発表の中間集計のもの、得点調整を実施した科目は調整後の平均点

* () 内は得点調整前の平均点

◇2020年度の英語は筆記・リスニングの平均点を100点満点に換算したものと

◇総合型は河合塾推定値

※総合型

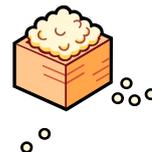
◇5教科7科目文系型…英語・数学(2科目)・国語・理科(1科目)・地歴公民(2科目)受験者

◇5教科7科目理系型…英語・数学(2科目)・国語・理科(2科目)・地歴公民(1科目)受験者

◇5教科6科目型…英語・数学(2科目)・国語・理科(1科目)・地歴公民(1科目)受験者

(母集団には5教科7科目文系型、5教科7科目理系型を含む)

*理科①は5教科7科目とみなして集計



大学入学共通テスト 各教科の特徴 (データネット2021 より抜粋)

英語(リーディング) — 全大問で読解型の新形式に変わり、様々な題材が場面や状況に応じて取り上げられた —

すべて読解問題となり、題材は日常的なものから意見文や叙述文まで様々な内容が扱われた。設問では意見と事実の区別を問うものやプレゼンテーションのスライドを完成させるもの、解答として当てはまるものを二つ選ぶもの等が出題された。読解量が大幅に増加し、多面的に情報を処理することが求められたものの、難易は昨年センター試験並であった。

【大問数・解答数】 配点が昨年のセンター試験の200点から100点となった。大問数6は、昨年のセンター試験から変更はなかったものの、昨年54個だった解答数は47個に減少した。

【出題形式】 発音・アクセントや文法・語彙の問題はなくなり、全大問において読解型の新形式となった。

【出題分野】 実際のコミュニケーションの場面を意識した、多岐にわたるジャンル・形式の出題。概要の把握から複数情報の整理・比較・判断まで多面的な資質・能力が求められた。複数の大問で、イギリス英語による出題がなされた。

【問題量】 素材文語数は、昨年のセンター試験から約1400語増加(約2800語→約4200語)。

英語(リスニング) — 大問数が増加し、第3問以降、音声は1回のみに。図表を用いた出題も散見された —

昨年センター試験と比べて音声情報と図表などの視覚情報を組み合わせて答える問題が増えた。日本語で設問の状況を与えられるなど、各場面や目的に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が問われた。第3問以降は音声は1回しか流れなかったが、取り組みやすい問題も見られ、難易は昨年センター試験並であった。

【大問数・解答数】 昨年センター試験と比べて、配点が50点から100点、大問数4から6、解答数25個から37個に増加した。

【出題形式】 英文が比較的短い第1問と第2問では音声は流れる回数が2回だったが、第3問以降は1回のみとなった。第5問では大学の講義が想定されており、第6問Bは日常的なトピックに関する4人の会話であった。なお、一部の設問に、イギリス人や日本人を想定したと思われる話者が含まれていた。

【出題分野】 日常的な発話から説明文や4人の話者による会話まで、多岐にわたるジャンル・形式の出題。概要の把握から複数情報の整理・比較・判断まで多面的な資質・能力が求められた。

【問題量】 配点・大問数の増加に伴い、聞き取る問題音声の語数は昨年センター試験から300語以上増加。読み取る問題の分量も昨年センター試験から増加。

国 語 — センター試験を踏まえつつ、複数テキストや応用的思考の設問が出題 —

昨年のセンター試験と比べて、設問数は減少、解答数は増加。センター試験の出題傾向を踏まえつつも、第1問では、文章を理解するために作成されたノートを用いた出題が、第4問では、詩と文章との複数テキストでの出題がなされるなど、試行調査と同様、複数の文章や資料を関連付けて考える力が求められた。昨年センター試験よりやや難化した。

【大問数・解答数】 大問数4、各大問の配点50点は昨年センター試験から変更なし。設問数は第1問で1問、第3問で1問減り、全体として2問減(24→22)。解答数は第1問で1個、第4問で2個増え、全体として3個増(35→38)。

【出題形式】 第1問は妖怪に関する論理的文章からの出題。問5で文章の内容を理解するために作成したノートが3つ示され、そのなかに出典の別の箇所でも引用されている芥川龍之介の小説「歯車」の一節も含まれていた。第2問は近代作家の小説からの出題。問6では、本文に関する批評文の一部が示された。第3問は、和歌を複数含む古文からの出題。第4問は漢文からの出題で、「御術」についての詩と文章の複数テキストが題材であり、文章に関するイラストも示されていた。

【出題分野】 昨年までのセンター試験と同様、近代以降の文章2題、古文1題、漢文1題という構成であった。

【問題量】 第1問は3300字、第2問は3600字、第3問は900字。第4問は、問題文Ⅰが110字、問題文Ⅱが66字だった。

数学ⅠA — 数と式、場合の数と確率で会話文、2次関数で現実の事象を扱う問題が出題された —

昨年センター試験と比較すると、大問数、配点は変わらず、一方で試験時間増加に伴い文章量や計算量は増加した。第1問、第3問の一部で会話形式の問題が出題され、第2問「2次関数」で陸上競技のストライドとピッチに関する現実の事象を題材とする問題が出題された。難しかった昨年センター試験より易化した。

【大問数・解答数】 昨年のセンター試験と同様、大問数は5問であった。第1問、第2問は必答で、第3問～第5問から2大問選択する形式であった。必答の第1問と第2問はどちらも2中間形式であった。

【出題形式】 昨年のセンター試験同様、数値を答える形式が中心であったが、適切な語句や文章を選択する問題が10題程度出題された。必答問題の第1問は、数学の事象に関する問題、第2問は現実の事象に関する問題が出題された。また、第1問〔1〕と第3問で会話形式の問題が出題された。

【出題分野】 集合と命題を除く全ての分野から出題された。ただし、数学Aの3分野からは、2分野選択。

【問題量】 総ページ数は23～24ページで、昨年のセンター試験より増加した。

数学ⅡB — 試行調査同様、会話形式の問題やグラフを選択する問題が出題された —

関数の性質やグラフの特徴を考察する問題、会話形式での問題が、試行調査と同様に問題が出題された。また、これまでのセンター試験では第5問であった「確率分布と統計的な推測」が第3問で出題された。昨年のセンター試験と比較すると、ページ数は増加したが計算量が減少したため、昨年センター試験より易化した。

【大問数・解答数】 昨年のセンター試験と同様に、大問数は5大問であった。第1問、第2問は必答で、第3問～第5問から2大問を選択する形式であった。例年のセンター試験と異なり、第3問が「確率分布と統計的な推測」、第4問が「数列」、第5問が「ベクトル」からの出題であった。必答の第1問は2中間形式であった。

【出題形式】 これまでは数値を答える形式が中心であったが、今年は解答群から適切な式や文章を選ばせる形式が20問程度あり、昨年のセンター試験より大幅に増加した。

【出題分野】 昨年通り、数学Ⅱの分野が60点分、数学Bの分野が40点分の出題であった。ただし、数学Bの3分野からは、2分野選択。

【問題量】 昨年のセンター試験よりページ数は4ページ程度増加したが、計算量は減少した。

※英国数の大問ごとの詳細や地歴・公民・理科の各科目については、各自 Web 検索して閲覧してほしい。

以下は、昨年度（R01年度（H31年度））の記事

センター試験 全国動向（河合塾Kei Netより抜粋）

センター試験志願者・受験者数はやや減少

2019年度センター試験の志願者数は576,830人（昨年582,671人：前年比99.0%）、本試験の外国語受験者数も538,603人（昨年548,465人：前年比98.2%）といずれも減少しました。

大学入試センターが発表した志願者数の現卒別の内訳をみると、現役志願者数は8,620人減の464,950人（前年比98.2%）と減少しました。既卒等志願者数は2,779人増加の111,880人（同102.5%）と増加し、対照的な結果となりました。現役生は18歳人口の減少に加え、前年度入試難化の影響から推薦・AO入試へ回避した受験生が多かったと推測します。又、前年度、特に私立大学定員厳格化の影響で浪人した受験生が多かったと思われます。

2018年12月に公表された「大学入学共通テスト」2日回目の試行調査では、読解力を要する問題や対話形式での出題、また文章や図表など複数の素材から考えさせる設問が目立つ内容となっていました。今年センター試験においても、全体的に目新しい出題は少なく傾向に大きな変化はなかったものの、昨年に続き、対話形式の出題や図の読み取りから考察する問題が見られました。たとえば「地理B」では、様々な図表を用いて、読み取りと基本的な知識を結び付けて解答させる問題がみられました。また、英語「筆記」では、第3問で話し合いの発言内容をまとめる問題が出されるなど、より実践的なコミュニケーション能力を問う問題となっていました。

「英語（リスニング）」「国語」易化、平均点は大幅アップ

<図表1>は、河合塾「センターリサーチ」参加者の平均点を集計したものです。

英語では、「筆記」は昨年並みでしたが、昨年過去最低の平均点となった「リスニング」は8.7点アップの32.0点となりました。「数学ⅠA」「数学ⅡB」とも平均点は昨年から大きな変動はありません。ただし、80点以上の高得点層が大幅に減少しているのが特徴です。国語は全体的に易化した影響もあり、昨年比17.0点アップしました。

主に文系受験生が中心となる理科①では、最も選択者が多い「生物基礎」が昨年から4.5点ダウンしました。昨年と比較すると科目間の平均点差は小さくなり理科②では、昨年難化した「化学」は平均点が8.3点アップし、主に理系生が受験する「物理」「化学」「生物」の平均点はいずれも61～63点の中におさまりました。科目間の平均点差は小さくなり、いずれの科目も31点前後におさまっています理科②では、受験生の多い「物理」「化学」の平均点が2科目で約10点ダウンしました。思うように得点できなかったと感じている理系生が多かったのではないのでしょうか。

地歴公民は、「地理B」で5.9点ダウン、「倫理・政治経済」で8.6点ダウンしました。4単位科目はいずれも6割を超えており、その差は小さくなっています。



教科	科目	満点	2021年度平均点	2020年度	前年差	
			[中間集計]	平均点		
外国語	英語リーディング	100	58.81	58.15	0.66	
	リスニング	100	56.16	57.56	-1.4	
数学	①	数学Ⅰ	100	39.1	35.93	3.17
		数学Ⅰ・数学A	100	57.68	51.88	5.8
	②	数学Ⅱ	100	39.5	28.38	11.12
		数学Ⅱ・数学B	100	59.93	49.03	10.9
国語	国語	200	117.51	119.33	-1.82	
理科	①	物理基礎	50	37.56	33.29	4.27
		化学基礎	50	24.65	28.2	-3.55
		生物基礎	50	29.17	32.1	-2.93
		地学基礎	50	33.52	27.03	6.49
	②	物理（得点調整前）	100	62.36（57.82）	60.68	1.68
		化学（得点調整前）	100	57.59（51.06）	54.79	2.8
		生物	100	72.65	57.56	15.09
		地学	100	46.65	39.51	7.14
地理歴史	世界史A	100	46.12	51.16	-5.04	
	世界史B	100	63.48	62.97	0.51	
	日本史A	100	49.55	44.59	4.96	
	日本史B	100	64.26	65.45	-1.19	
	地理A	100	59.97	54.51	5.46	
	地理B	100	60.06	66.35	-6.29	
公民	現代社会（得点調整前）	100	58.40（51.96）	57.3	1.1	
	倫理	100	71.96	65.37	6.59	
	政治・経済（得点調整	100	57.03（49.87）	53.75	3.28	
	倫理, 政治・経済	100	69.26	66.51	2.75	
総合型	5教科7科目文系型※	900	553	547	6	
	5教科7科目理系型※	900	569	552	17	
	5教科6科目型※	800	504	493	11	

【注意】					
※科目平均点は大学入試センター発表の数値					
◇2021年度平均点は1/22発表の中間集計のもの、得点調整を実施した科目は調整後の平均点					
*（ ）内は得点調整前の平均点					
◇2020年度の英語は筆記・リスニングの平均点を100点満点に換算したもの					
◇総合型は河合塾推定値					
※総合型					
◇5教科7科目文系型…英語・数学(2科目)・国語・理科(1科目)・地歴公民(2科目)受験者					
◇5教科7科目理系型…英語・数学(2科目)・国語・理科(2科目)・地歴公民(1科目)受験者					
◇5教科6科目型…英語・数学(2科目)・国語・理科(1科目)・地歴公民(1科目)受験者					
(母集団には5教科7科目文系型、5教科7科目理系型を含む)					
*理科①は2科目を1科目とみなして集計					

●受験生の動向から――福島大農学群食農学類 前期

2019年4月から新設される福島大学食農学類はどうか？まず、募集人員は前期60名、後期20名。センター5教科7科目900点満点で2次試験は前期・英・数(ⅡB)・理(物、化、生)から2つ、後期・英・数(ⅡB)・理(物、化、生)から1つ、面接である。福島県の農林不意産業の復興・再生に向けて、「農学専門科目」と「農学実践型教育」の二本柱からなる新たな教育により、食と農の課題に対して主体的創造的に取り組む人材を育成。4つの履修コースがあり、「食品科学コース」「農業生産学コース」「農業経営学コース」「生産環境学コース」がそれである。ベネッセ・センターリサーチでは、地元の生徒を中心に集まりがよく、ボーダー得点率も60%となっている。(山形大：61%、宮城大58%)

<1年生へ>

大学入試を目指している諸君へ。どれだけの生徒が2019年度センター試験にチャレンジしただろうか？まだ目を通していないという生徒諸君はこの時点で一歩も二歩も遅れをとっていることになる。2021年度から大学入試が新たな制度となるのは知っていると思う。現行のセンター試験は全受験生の平均点が65点前後になるように作成されている。今年のセンター試験はその点でお見事といっている。君たちが受験する「大学入学共通テスト」は全受験生の平均点が50点前後に設定することがすでに発表されている。英数国を中心に、記述問題をプラスして受験生の思考力・読解力を図る狙いがある。「1年生の時からやっておけば・・・」という思いを3年になってからしないためにも、今何をしなければならないかを考えて、アクションを起こすことが重要になってくる。

まずは、一日一日の学習の積み重ねしか有効な方法はないのだ。週末課題、日々の課題は誠実にこなしているか。課題の提出状況が思わしくないと耳にすることもある。このままで良いのか？それで君の将来は大丈夫なのか？キチンと提出している人もただ答えを書き写すだけに終始していないか。「誠実」とは答えを書き写すことではない。受験は全国規模での他者との競争である。他者が君たち以上にやっていたら、君たちは必然的に敗者となる。せいぜい人並みの努力を人並みにして、それ以上の結果を望むのは、余りにも虫が良すぎる。人より数倍努力を積み重ねてきたものが勝者となるのである。これはスポーツの世界と原理は一緒である。

期末考査も目前に迫っている。君たちにできることはベストを尽くすことのみである。「2年生になったら頑張ろう」「4月から頑張ろう」という者は、一般的に成功しない。「今、この時点から小さなことを、具体的に、1つでも頑張り始める」こと。1年で学習したことを、もう一度復習・演習をしっかりととして、2年生進級時には学力として定着させておくこと。時期的に復習と演習を始めている人が沢山いてもいいのだが、どれだけの諸君が着手しているだろうか？春休みに新しい教科書を手にしたら、予習を、特に英数国は自分で進めておくくらいが丁度良い。そこで、春休みの具体的な計画を立てること。特に、国数英3教科は、得意・苦手を手を踏まえた1日単位の学習計画を立てる。苦手分野は今のうちに克服しないとその綻びがどんどん大きくなり、3年生時にはどこから手を付けたらよいか分からなくなる可能性がある。今しかないのである。併せて、起床時間や就寝時間を固定するなど、生活リズムが崩れないようにスケジュールを立てることも大切である。特に学習習慣が定着しておらず、早くも諦めかけている者は、入学時の目標を思い出すべきである。「諦めるのはまだまだ早すぎる。」



<2年生へ>

センター試験で国公立大合格の目標点は、難関大学では8割、地方国公立大では6.5～7割、今年の平均点程度は必要だ。1月にセンター試験演習を行ったが、目標点と自分の現状との差をどの程度認識できただろうか？ 普段の家庭学習がいかに疎かにされているかが分かっただろう。マークシート方式の模擬試験がいよいよこの2月からスタートする。今の時期に模試を実施する目的は、自己採点の結果、目標点まであと何点必要なのかを確認するためである。3年からの模擬試験では、教科ごとの目標値を修正しながら第1志望校の目標点数に近づけて欲しい。今から本気になって努力を継続すれば、何とか間に合うはずだ。そのためには自宅での学習時間の確保と生活の仕方を見直す必要がある。何かと理屈をこねて、怠惰に身を任せるのはここまでにして下さい。時間はいくらあっても足りない。電車・バスの中、休み時間、放課後等、創意工夫を凝らし、自らの学習スタイルを確立するようにしなさい。

最後のセンター試験まで1年を切った。まずは3年生夏休みまでの学習計画を立てることをお勧めする。1月の模試、2月のセンター対策模試の個人成績表が返ってきたら、自分の成績が全国でどの位置にあるかを確認したうえで、志望校合格に向けて、どの科目をどれだけ伸ばしていくのかを考える。そして、次の模試までの目標と学習計画を立てる。このように、模試の結果から学習計画を立て、次の模試でその成果を試すというサイクルを早い段階で定着させること。その時、まず最初に苦手科目・分野の克服を最優先しなさい。そこで、学年末テスト や1・2月模試の結果から、苦手科目・分野を把握し、そのうえで、春の休業中であっても登校して、徹底的に教師に質問をして下さい。勉強の仕方が分からない？ 何故、今までそのまましてきたのか？ それも含めて教師に質問をして下さい。

塾や予備校も有効な方法であるが、過度に依存してはならない。飽くまで、「学校が主」である。

推薦・AO は、一般入試と同程度の偏差値の高校生を、早期に囲い込みたい大学側の策略と心得よ。まずは一般入試でも志望校に合格できる実力をつけること。

部活動を辞めようとしている者は、できるなら、踏み止まりなさい。部活動を最後まで頑張り抜いた者は、部活動引退後に本格的に勉強し始めると、最後の最後で成績がぐっと伸びる。(当然、部活をやりながらも、勉強の時間は確保しない者には、伸びは期待できないが。)部活動を最後までやり切った達成感が大きい。

